

哺乳類

草津市は、森林の面積があわせても220haしかなく、哺乳類が生息できるようなまとまった森林がほとんどないため、生息する哺乳類は限られています。今回の調査では、7科11種を確認しました。大型の種では、市の南東端にわずかに残されている山林で、シカとイノシシの生息が確認できました。中型の種ではニホンザルは確認できましたが、キツネやタヌキなど身近にいるとされる種を確認することはできませんでした。

小型の種では、コウベモグラ、テン、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミの5種が確認されました。また、これまでの調査から生息が確認されているアブラコウモリとカヤネズミを含めて7種の小型哺乳類の生息が確認できました。これらの種は、南東端の山林でのみ確認された種もあれば、河川敷に残された草地を利用して生息しているのが確認された種もありました。

一方、本来は野生で生息していない動物も、市役所へ寄せられている目撃情報から確認されました。ヌートリア、アライグマ、ハクビシは日本に生息していない種です。また、ペットの犬が野山で生息するようになるとノイヌとして野生動物とされますが、馬場町の山林で確認されました。



身近な自然の小さな動物たち

小型の哺乳類はほとんど人目につきません。しかし、市内の広い範囲で見られ、気がつけば身近な動物です。

アカネズミは、森林から草地や耕作地まで、さまざまな環境で見られる一番普通のネズミです。それに対して、ヒメネズミは森林を好むので、南東端の森林でしか、確認できませんでした。



アカネズミ (松浦宜弘)

ハタネズミは、その名のとおり畑な

どでよく見られたネズミで、昔は大きな農業被害を引き起こしていました。今では、^{ほじょう}圃場整備による昔ながらの畦の減少と河川改修による河川敷の草地の減少により、生息できる環境が縮小、分断されて、滋賀県内でも希少な種となりつつあります。



ハタネズミ (松浦宜弘)

草津市内で確認された哺乳類

科	和名	草津市	馬場町	牟礼山	草津川	葉山川	下物町	山寺町
モグラ科	コウベモグラ	○	○					
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	○						
オナガザル科	ニホンザル	○						
イタチ科	テン	○	○	○				
	イタチの仲間	○		○				
	ハタネズミ	○			○			
ネズミ科	カヤネズミ	○						
	アカネズミ	○	○		○	○		
	ヒメネズミ	○	○					
イノシシ科	イノシシ	○	○					
シカ科	ニホンジカ	○	○					
合計7科	11種							

ひっそりと生きる動物たち

哺乳類の多くは夜行性です。人間や犬などが活動している昼間を避けて活動するからです。そのため、昼間にその姿を見ることは稀です。



イタチ類またはテンの糞 (高柳敦)

自動撮影装置を使うと夜間に活動している彼らの姿を見ることができます。昼間には、彼らの残した痕跡である糞などから生息状況を知ることができます。イタチ類には、在来のニホンイタチと大陸から持ち込まれたチョウセンイタチがありますが、痕跡や写真から判断することは困難です。

人知られず活動しているこれらの動物たちの姿を、痕跡や写真から想像してみるのも楽しいことです。



テン (高柳敦)

数は少ないが厄介な動物たち

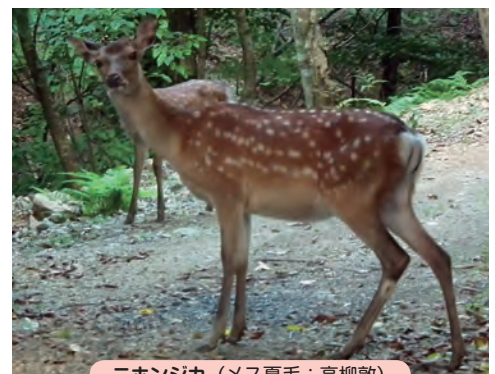
草津市で最もその存在が意識された身近な野生動物は、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルでした。これらの動物が生息するには、草津市内の森林は狭すぎるため、これらの動物は草津市内に定住しているのではなく、食べ物を求めて草津市周辺から一時的に訪れているだけの種であると言えます。

ニホンジカは、草津市周辺にはあまり生息していませんでしたが、個体数が増加し、草津市でも見られるようになりました。今では、農業被害が問題となっているだけでなく、森林の林床の植物が減少したり、シカがあまり食べない植物が増加したりして、貧弱な植生に変ってきているほどです。

農業被害の点では、イノシシの方が大きな被害をもたらしています。そのため、草津市では、毎年、イノシシとシカを駆除しています。

ニホンザルも、群れから放れたサルが現れています。目撃は、追分町、青地町、山寺町などの南西の地域に集中しています。

これらの動物の被害はなくさなければなりません。同時に残された自然の象徴でもあるので、被害対策をしっかりとって、彼らが出現できる自然を残したいものです。



ニホンジカ (メス夏毛: 高柳敦)



ニホンジカ (オス冬毛: 高柳敦)



シカの影響で貧弱になった林床 (高柳敦)



イノシシ (高柳敦)

本来は生息していない野生動物—外来種

市民生活で困る動物として、本来、野生には生息していない種があります。これらの種は、人間によって自然のなかに持ち込まれた種という意味で外来種と呼ばれています。

草津市で確認された外来種の哺乳類は、海外から持ち込まれたアライグマ、ヌートリア、ハクビシンとペットの犬が野生化してしまったノイヌの4種です。海外からの3種は、いずれも農業被害を引き起こし、アライグマはさらに人家に侵入して生活被害を引き起こすことがあります。いずれもここ数年になって目撃されるようになっており、近年侵入してきたと考えられます。

ノイヌは、南東端の山林で確認されました。1頭だけでしたが、今後、注意が必要です。



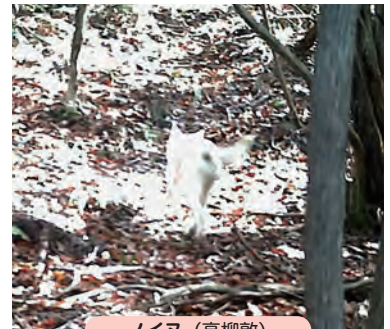
ハクビシン (幼獣：名和明)



アライグマ (琵琶湖博物館所蔵：名和明)



ヌートリア (高柳敦)



ノイヌ (高柳敦)

草津市内で確認された外来種

科	和名	目撃情報があつた地域
アライグマ科	アライグマ	青地町、追分町、北山田町、草津町、西大路町、川原三丁目 ほか 計 11 地区
ヌートリア科	ヌートリア	草津四丁目、下寺町、琵琶湖岸
ジャコウネコ科	ハクビシン	野路八丁目
イヌ科	ノイヌ	馬場町

残された森林の保全と外来種の駆除が重要

草津市では、哺乳類は残されたわずかな自然環境を利用して生息しています。これらの環境をこれ以上失うことがないように保全することが豊かな自然を残すために大切です。

同時に、外来種をできるだけ速やかに駆除して除去することが、被害防止のためだけでなく正常な自然環境を残すためにも必要です。



市南東端 (馬場町) の山林。市内でここでしか見られない種がいる (高柳敦)